

女子美

No.151/2005



イラスト:川幡由佳

2P 06インタビュー 女優・タレント 川幡由佳さん
5P アメリカ美術大学視察見聞録
6P 図書館展示企画報告
7P はんばら&女子美 デザインプロジェクト 他
8P 女子美りかちゃん発売!、水森亜土講演会 他
9P 「多彩な響き 大村コレクションより」展 他
10P 2005年度 新任専任教員紹介
11P 女子美アートミュージアム、公募展受賞者紹介
12P 2004年度 卒業(修了)制作展
14P 学外卒業制作展
15P シリーズ歴史資料紹介⑩
16P 退職教員紹介
18P 役職者紹介 ~新入生のみなさんへ~

女子美術大学広報誌

Interview ● OG インタビュー —女優・タレント 川幡由佳さん—

ドラマやCM、バラエティ番組などで活躍する川幡由佳さんは、中学から短大までを女子美で過ごされました。1998年からは、TBSの「世界ふしぎ発見！」で出題者の「ミステリーハンター」を務め、タフさが要求される秘境取材も含め、世界各地を巡り歩いていらっしゃいます。様々な体験を元に、昨年は初めてのイラスト入り冒険小説も発表されました。演じること、描くこと——2つの夢がつながり、ますます活躍の場が広がっている川幡さんの旅行談からは、女子美生らしい観察眼の繊細さと、世界の人々との言葉の壁を越えた、豊かなコミュニケーション力がうかがえました。



友達の個性にとけこんだ付属時代

—川幡さんは、中学・高校から女子美の付属ですね。どのように思われて、中学校から美術の学校を選ばれたのですか？

川幡：小学校の時は運動音痴で、みんなと遊んでも浮いてしまう子でした。唯一好きだったのが、ひとりで絵を描くことだったんです。女子美という学校があると聞いた時、中学や高校に行ってもたくさん絵を描ける環境なんていいな、と思って受験しました。

実は、父方の大叔母が女子美大卒で、彼女自身は戦争中に18歳前後で亡くなったそうですが、描いた油絵がうちに残っていたんです。母方の祖父も昔、絵を描いていたと聞きました。そんな環境に、影響を受けたのかもしれませんが。また、母が好きで全巻を集めていた『サザエさん』を見て、いつか長谷川町子さんみたいな暖かい漫画を描きたいという夢を抱き、誰に見せるでもなく、4コマ漫画を描いていました。我が家は金物屋をやっていて、店のチラシの



女子美術大学付属高等学校卒業式

絵も子どもの頃から描かされていました。「大売出し」とか「福引大会」とか「フライパン大安売り」とかを、漫画タッチで。女子美の付属に入ってから、せっかく美術の学校に行かせたんだから、とますます頼まれるようになりました(笑)。

絵を描く人って、個性的な人が多いですよ。私は変わってる子だと言われ続けていましたが、付属では同じような「変わった子」がたくさんいて、その中に自然に溶け込めたんです。今も、付属の友達は本当の親友。TVで自前の衣装の時には、イラストレーター鈴木久美子さんがスタイリングからヘアメイクまでをやってくれたり、ファンの方のためのHP作りでは、CGデザイナーの玄嶋祐美さんがデザインを、フォトグラファーの荻原佐和子さんが写真を撮ってくれています。現在の仕事の上でも、女子美時代の親友たちに、とても助けてもらっているんですよ。

—付属時代の印象的な思い出は何ですか？

川幡：今、名前をあげた仲間たちと一緒に「マリオネット」という、有志の演劇グループを作っていました。ギャグからシリアスものまで、演出も脚本も演技も、自分たちで手がけました。女子美生ですから、特に凝ったのが舞台美術。仕掛けや背景、小道具、照明の色合いや当て具合、メイクまで、何もかもすごく凝って。議論に熱くなって、よくケンカもしましたね(笑)。

私は仲間うちで一番絵が下手で、絵ではみんなにかなわないなあ、と思っていたんですが、芝居を演じるという場面になった時、私が一番恥知らずだったんですね(笑)。この時、人前で芸をするのは楽しいと感じ

て、卒業したら芝居のできる仕事につきたいなと、漠然と思い始めました。

「世界ふしぎ発見！」のミステリーハンターに

—芸能界に進まれたのはいつですか？

川幡：短大在学中にモデルを始め、卒業後にドラマ・オーディションに受かってデビューしました。最初の役は様々な苦難の末、最後は幽霊になるという体当たりの役で、ほとんど特殊メイクで出演しました(笑)。毎日が無我夢中の時、スタッフの方が「由佳ちゃん、女子美出身だったら、描いた絵をセットに飾ってあげるよ」と言って絵を置いてくださったことがあり、とても嬉しかったですね。

—川幡さんは、TBS「世界ふしぎ発見！」で、世界中の色々な地域へいらしてますね。

川幡：23歳の時、出題者の「ミステリーハンター」として出演するお話をいただきました。初めての取材は、アステカやマヤなどメキシコの古代文明。それまではスタジオの中や貸し切った場所で、台本通りに進む仕事ばかりでしたから、「ふしぎ発見！」のゲリラ的な撮影には最初、戸惑いました。実家が商売をしていたために旅行も少なく、これが初めての海外。古代都市だったティオテワカンで、伝説の神の名前や年号の入った極端に長い台詞を、ADさんが観光客を待たせている間に撮らなくてはいけない。「一発をお願いします」とプレッシャーもかけられて、もう必死。2週間後に帰国したときには、何をしたのかも覚えていなかったほどです(笑)。

失敗も多かったので、2度とお呼びはかからないと思っていたのですが、すぐに、次はエジプトです、と告げられました。呼んでいただけた理由を後でスタッフの方に聞いたら、「いきなりの2週間のロケで、1度も体調を崩さなかった人は珍しい」と(笑)。それ以来、私の取材先は、ジャングルや砂漠ばかりで、スタッフには「秘境系」と呼ばれています。私もたまにはベルサイユ宮殿とかに行ってみたくいと言うと、一言「似合わないよ」と、却下されています(笑)。



メキシコで

ジャングルの遺跡と暮らす村での似顔絵交流

—女子美らしいタフさ、怖いもの知らず、エネルギーなところが、秘境取材に発揮されたのかもしれないね(笑)。

川幡：しばらくしてから、初めてのジャングル・ロケでカンボジアへ行きました。コーケーというアンコールワットと同規模の遺跡が、内戦中ポルポト派に占拠されていたジャングルに眠っているんです。上智大学の石澤良昭教授が50年前に一度見ていらっしゃるのですが、内戦と内戦後に残る地雷のために、行けなくなってしまった。そこへ、上智大研究員の方たちと一緒に、民放では初めて入れることになったんです。「サバイバルなロケになるから覚悟しておいてね」と言われました(笑)。

カンボジア軍のヘリコプターで市街地から1、2時間、エンジンの轟音で話もできないままジャングル上空を飛び、みんなが指差すので下を見ると、着陸予定地の広場に人がワアッと走って集まってくるのが見えました。「好意的でなかったらどうしよう」と不安にもなりました。ところが、みんな手に椰子の実やバナナ、タロイモを抱えて差し出しながら、よく来た、よく来たって歓迎してくれたんです。ここは、元々の村人が50年間の内戦中に散り散りになり、最近になって戻り始めた30～40人

の小村でした。まだ地雷も残り安全とはいえない中、遺跡のそばで牛を飼い、鳥を飼い、畑を耕して自給自足している。そうした大切な作物を私たちにくれるのは、とてもありがたいと思いました。

到着の翌日は、スタッフがロケハンに行く間、村でひとり待っていました。地雷のために、宿泊場所である高床式の小屋からも離れられないので庭で丸太に座っていたら、村の子どもたちがクスクス笑いながら、木陰から遠巻きに私を見てるんですね。「ああ、可愛いなあ、仲良くなりたいなあ」と思ったのですが、ちょっと近づくと、みんなビクッと後ずさりするんです。そこで、スケッチブックと色鉛筆を持ってきたことを思い出し、荷物から出してきて、遠くにいる小さな女の子の似顔絵を描きました。みんなが興味津々の中、描き上がりを破ってパッと1枚手渡すと、一度にワアッと歓声があがりました。あっという間に、僕も描いて、私も描いてと行列ができてしまったんです。お母さんたちも出てきて、うちの子を描いてと言出し、そのうち、おばあさんが子どもたちをどけながら前に進み出て、自分を指差し、「私を描きなさい」と(笑)。TVのような娯楽もなく、子どもの姿を記録に残せるカメラなどもないので、みんなとても喜んでくれて、スタッフが帰るまでに、村人たちとすごく仲良くなれたんです。

—学んだ絵が、思いがけないところで生かされたんですね。

川幡：この取材までは、撮影の仕事のみに夢中で、現地の人と話そうとはあまりしてこなかったんです。でも、この似顔絵交流を通じて、自分の気持ちがパッと開けましたね。まったくの異文化の中において言葉が通じなくても、子どもの無邪気さや、お母さんたちの子どもに対する気持ちは、日本と全然変わらないんだ、と気づいたんです。文化の違いなんて、些細なんだと思えました。

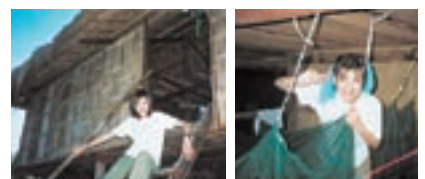
翌日は子どもたちも一緒に、ジャングルの中の参道の跡を、地雷を避けながら一列になって遺跡に向かいました。そのうち、人の顔をした柱や石が草の中にゴロゴロと転がり始め、行く手にツタや木の根に絡まれた、一見、小山のような、『天空の城 ラピュタ』のような神殿が現れました。兵士に急斜面を引き上げてもらい、昔は神官と王しか登れなかった神殿の上に立つと、当時の都だった地が一望できました。

さぞや立派であったであろう都が、今はジャングルに埋もれている。そして戦場になり、今も地雷だらけの土地で、こんなに優しい人たちが、昔と同じ貯水池で水を汲み、暮らしている。人のたくましさを感じ、胸が詰まりました。仲良くなった子の中にも、地雷で手や足を失くした子どもたちがいました。それまでは、ニュースで外国の内戦や地雷の話聞いても、遠い地の出来事で、自分にはあまり関係がないと、頭のどこかで思っていました。しかし、カンボジアの子どもたちに出会い、世界の見え方が大きく変わり、帰ってきてからささやかながら、地雷撤去キャンペーンに募金をさせていただきました。ひとりひとりでは自己満足のような額でも、集まって大きな額となり、少しでも地雷の危険を取り去ることができればと、考えが変わったんです。

パプアの女性たちの工房で

—昨年は、『やまとの大冒険』(講談社)という児童小説を出版されましたね。

川幡：この小説の舞台は、やはり取材で訪れたパプア・ニューギニアのセピック川沿いの村です。首都から飛行機で2時間、車で10時間、1泊してからカヌーで8時間、ワニだらけの川をさかのぼったジャングルの中にありました。精霊信仰の村で、男性はワニの生まれ変わりだと信じられ、全員、ワニの柄に盛り上がった刺青をしているんです。また、女性はみんなアーティスティックな像を作ります。生活用品の土器、す



カンボジアで

べてに精霊の顔が付いています。

そこでは、村一番の土器作り名人であるロサさんというお母さんの家にホームステイしながら、土器作りを習いました。粘土が紙粘土などと違って不純物が多いのでボロボロと形になりにくく、私はたいへん手こずったのですが、ロサさんは根気よく、真剣に教えてくれました。何日かたってようやく女神の顔ができたときには、女性だけの工房全体が一斉に喜んでくれました。こんなにお世話になって何かお礼をしたいけれども、衣装さえ着たきりすすめで、何も持ってきていない。その時、カンボジアでスケッチが喜ばれたことを思い出し、ロサさんの似顔絵を描いたんです。すると、女性たちが似てる似てるって盛り上がるのですが、出来あがりをお母さんに見せると、本人はキョトンとして黙っちゃったんですよ。しまった、ウケなかったかなあと、思っていたら今度は横にいた娘のコーリンちゃんの似顔絵を描きました。すると、ロサさんは他の女性と一緒に似てる、似てるって喜んでいますが、本人に見せるとまた、きょとんとする。なぜ本人は黙ってしまうのだろうと考えたら、鏡がないのでみんな、自分の顔をはっきり見たことがないんですね。川も泥水だし、カメにためた生活用水も薄暗いところに置いてあるので、自分の姿を知らない。そのことに気づいた時、またも、彼女たちが日本の私たちとは全然違う環境で暮らしていること、それでもこんなに仲良くできるって、なんて不思議なんだろうと思いました。

最後の日、帰りたくなくてロサさんとコーリンちゃんの周りをウロウロしていたんですよ。すると、ロサさんが私の焼いた下手な土器と自分がお手本に焼いた土器をふたつ、手に握らせてくれるながら、ポトポトと涙を流すのです。「ユカは土器が焼けたじ

ゃないか。土器が焼けたってことは、この村の女だってことなんだから、この村に残って嫁に行けばいいじゃないか」って。船が離れる時は、村人たちが川の中を腰まで漬かって別れを惜しんでくれ、スタッフも私も大泣きでした。講談社の方に、世界の取材体験をもとにイラスト入りの冒険小説を書いてみないか、と誘われた時には即、この「パプアの体験を書きたい」と思ったんです。

—まったく文化の違う世界の土地を訪ねて、実感されることは何ですか？

川幡:言葉は「こんにちは」「ありがとう」「おいしい」くらいしか覚えられなくても、人間同士の心のコミュニケーションはしっかりできるものだと思っています。それから、どこの文化でも必ず、美術品や絵がありますよね。絵というものは万国共通、人間にとって自分たちの歴史を残す最もポピュラーな手段なんだ、と感じています。

—最後に、女子美の後輩たちにメッセージを送ってください。

川幡:絵というのは、自分を表現できるとともに、人とつながることもできるものですよね。女子美では、先生や友人からデッサンや構図など、絵に関する基本的なことを、知らず知らずのうちに習っていたと思います。当時は、早く基礎の次に進みたいばかり思っていたのですが、今も漫画を描くときに役立っているのは、この基礎なんです。

私の夢は一時、美術から、芝居や芸能界へと方向が変わりましたが、今また、思いがけなく昔の夢が不思議な形でかなっていると感じています。やりたいことは何でも目指し、欲張るくらいのほうが後々、自分の世界が広がるのではないのでしょうか。みなさんにもそんな気持ちで頑張っていたきたいですね。



『やまとの大冒険
—ジャングルのクリスマス・ツリー—』
川幡由佳著（講談社「青い鳥文庫」）

「世界ふしぎ発見！」の取材で訪れたパプア・ニューギニアの村での実体験を下敷き、川幡さんが書き下ろした初の児童冒険小説。小学校ではおとなしくて、いじめられてばかりの女の子、蟹田やまとがパプア・ニューギニアで迷子になり、ジャングルの中の村での村人たちとの交流から成長していく物語。主人公のやまとは、川幡さん自身の子どもの頃を描いたそう。インタビューにも登場したロサさんやコーリンちゃんたち、村の人々との交流や異文化の発見が、生き生きと描かれている。



■プロフィール

川幡由佳（かわはた ゆうか）
女優・タレント

（株）スターダストプロモーション所属。

1976年1月17日生まれ。女子美術短期大学造形科絵画専攻卒業。短大在学中にCMデビュー。97年にフジテレビ「氷災」でヒロインを演じ女優活動を開始。98年よりTBS「世界ふしぎ発見！」のミステリーハンターを務め、世界各国をレポートしている。趣味は絵を描くことで、各ホームページにも掲載されている。

<世界ふしぎ発見！でのレポート国>

カンボジア・インド・インドネシア・エジプト・エチオピア・ニュージーランド・パプアニューギニア・バングラディッシュ・オランダ・メキシコ・スペイン・エジプト・中国・ポルネオ・ブルガリア・タイ など30ヶ国以上

<連載・出版>

2002年 講談社『BE LOVE』で、漫画「ミステリーハンター川幡由佳がゆく!!!」を連載。2004年 冒険小説「やまとの大冒険」（講談社「青い鳥文庫」）を出版

<ホームページ>

川幡由佳の「由佳もふしぎだらけ」
<http://yuka.itspy.com/>



Topics ● ① アメリカ美術大学視察見聞録

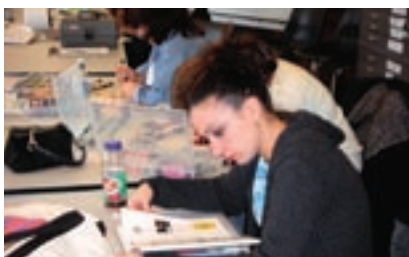
大学・短期大学部の国際交流委員会では、2004年10月27日から同11月6日にかけて小林篤志委員長（国際交流担当部長、外国語研究室）、喜多尾浩代委員（芸術学部ファッション造形学科）、下田明（国際交流センター）がアメリカ東部の美術専門大学3校を視察訪問しました。日本とは異なる美術・デザイン教育の環境や方法など、現地の事情をお伝えします。

<ムーア美術大学>



ムーア美術大学／校舎

アメリカ建国の地フィラデルフィアにあるムーア美術大学は、全米唯一の「女性のための美術専門大学」として知られています。このような高等教育機関は、世界中を見渡しても本学とムーア美術大学の2大学しかありません。1848年に創立された学生数500名の小規模大学で、学生は1年次で美術・デザインの基礎知識や技法を包括的に履修し、2年次から選択した専門領域を学習します。実技教育はもちろんのこと、芸術感性を高めるための教養教育も重視しています。女子大学という視点から見ると、女性のリーダーシップを育成するための施策の一つとして、卒業直後の同窓生1名を大学評議会の委員に任命しています。フェ



ムーア美術大学／グラフィックデザインの授業

ルナンデス学長は、「評議会は社会性と自立性を養う場であり、社会や組織のリーダーとなるためのスキル獲得には絶好の機会である」と話します。キャリア教育は実践的、かつ、丁寧です。キャリアセンターには履歴書の書き方や面接の受け方の指南書、求人情報等が所せましと並べられており、求人情報メールマガジンには卒業生を含めて

800名が登録されています。大通りに面した校舎の一角にはアートショップがあり、在学や卒業生、教員の作品を販売しています。美術・デザイン知識に加えて商品販売やマーケティングのノウハウを持った専任マネージャーが作品仕入れを担当しており、将来は規模を拡大して大学運営資金獲得の柱に成長させたいと期待しています。

<ボストン美術館付属美術学校>



ボストン美術館付属美術学校／校舎

ボストン美術館付属美術学校(ボストン)は、美術館が大学を設置しているという点でユニークな存在です。1877年に創立され、1,100名の学生が学んでいます。学位(学士)取得課程と非取得課程の2種類があり、学位(学士)を取得するには、学生は在籍4年間のうち1年間を近隣のタフツ大学での教養科目履修に充て、所要単位を修得しなければなりません。学位を必要としない場合には、4年間実技教育を受け、卒業時にはディプロマ(修了書)を取得します。学部カリキュラムでは、学生は特定の学科・専攻に所属することはなく、自ら設計した履修計画に基づいて開設領域の中から自由に科目を選択して履修します。つまり、4年間絵画制作中心に過ごすことも、多くの領域を渡り歩きながら卒業することも可能なわけです。学校は教育理念として



ボストン美術館付属美術学校／制作風景

「芸術的学際性」を重視しており、種々のジャンルのクロスオーバーを学生に求めています。ドゥルヒー学長は、「ここ(学校)は、学生が将来社会の中で生き延びていくためのスキル、社会への貢献、社会との良好な関わり方を包括的に伝える場所である」と

強調します。ボストン美術館との関係においては、学生は興味ある美術分野があれば、それに精通する美術館学芸員を訪ねてレクチャーを受けたり、収蔵庫の未展示作品を見たりすることができます。

<プラット・インスティテュート>



プラット・インスティテュート／大学正門

1887年に創立されたアメリカ最古の私立美術大学であるプラット・インスティテュート(ニューヨーク)には4,500名の学生が在籍し、全米一の規模を誇ります。マンハッタンとブルックリンの2キャンパス制を採り、今回はブルックリンキャンパスを訪問しました。マンハッタンキャンパスには職業訓練のための準学士課程を設置し、700名の学生がスキルアップ・生涯学習を求めて勉学に励んでいます。学部カリキュラムは、ムーア美術大学と同様に、1年次で美術・デザインの基礎知識や技法を包括的に履修し、2年次から選択した専門領域に入ります。ユニークなコースとして、モノを通して文化を考える「視覚文化研究コース」や、芸術批評や文芸作品創作を扱う「出版・パフォーマンス・メディア言語表現コース」が挙げられます。これらのコース以外でも、全学にわたる教育戦略として、学生の文章活動(言葉による表現)と創作活動の相互作用を強化することを目指しており、学科系コースと実技系コースが連携した文章力強化プログラムを実施しています。留学生数は628名で、全学生に対する比率は14%程度、8割がアジア諸国出身です。また、最多出身国は韓国(300名)で、日本人留学生は68名います。

(国際交流センター 下田 明)



プラット・インスティテュート／人物デッサンの授業

Library ● ● ● 森先生からのメッセージ — 図書館展示企画報告 —

図書館では、昨年（2004年）12月に、大学院デザイン担当の森啓先生による「『書物』という かたち」と題した講演会を開催しました。好評につき、さらに「『書物』という かたち その2」という 5つのテーマからなる連続展示企画を立て、併せてライブラリー・トークを開催し、先生から展示物の解説・説明をいただきました。毎回、森先生からの掘り下げた含蓄ある話題を、参加者一同興味深く拝聴し、楽しい時間を過ごしました。

第1回展示

「事典・図鑑／辞典・字典の昔と現在」

2005年1月24日—28日

<ライブラリー・トーク 要旨>

(1月26日)

講演は、ドイツのヨハネス・グーテンベルクが15世紀中頃、「活版印刷」を、ひとつの文化に関わる技術として体系化したのが、それは、書物を複製化する方法を開発し、その書物が、西欧社会を大きく拡大させていくための素地を造ったからであるという話にはじまり、書物の日本への伝来という歴史、西欧の発展の基礎に啓蒙主義の思想があり、ディドロとダランベールの百科全書が、その役割を果たしたという話に及びました。

さらに、学生たちへのメッセージとして次のような話がありました。

「今、絵画をはじめ、自分の専攻している学科で学んでいるのは、ある手仕事を手がかりとして、自分の想像力をもって、一つのメッセージを発して行くための手法の獲得という目的があると思います。そこで起るさまざまな出来事、それらを含めた日常生活の中の多くの事柄を、一つ、自分で定義してみたいかがでしょう。これが、今日の僕の問いかけです。つまり、自分の日記帳に、今日、電車またはバスに乗り学校に行くと、書いてみて、さらに絵を細部まで含めて描いて、他の人に説明してみるのは。そうすると、<電車で何だろう？>、<バスで何だろう？>と考えてみるが必要になってきます。言葉による定義、また、視覚的な色彩や形態を用いた物の存在を、自分なりに表現しなければならなくなる。路線バスは、法的な定義では、一定の路線を不特定な人を乗せ料金をとって走る大型の乗合自動車などと、百科

事典などに書いてあります。それを絵画的に説明するとすれば、どういう事になるでしょうか。イラスト1枚で済むでしょうか、あるいは何枚も描くことになるのでしょうか。学校に行くことを<定義>してみたらどうでしょうか。つまり、自分が生きていることは、言ってみれば、一つ一つの事象の中の、ある部分を選択し、自分がそこに参加することにより、一つの道筋を経験しながら歩いていくということになります。そこで、あまり深く考えず、定義もせずに通過してきてしまったことに気付きますが、時間の経過の中で原因と結果があって、いろいろな変化と変容があります。今日の出来事を記すということは、それを自分がどのような形で記録していくか、定義をして、前へ進んできたかということになる。それが、自分の作品を創るための土台になると思うのです。一つ定義をして、記録し、それをさらに押し進めて、自分の周りの全部の世界を定義してみたいかがでしょうか。書物というのは、このような経緯を簡略な形で示している<もの>なのです。」

第2回展示

「ブックデザイン 装丁・特製本・特別仕立ての本」

(2月7日—10日)

第3回展示

<パブリシティ>という名の書物群 紙のSpecimenbook「竹尾」の記念刊行物、「マツダ」のカルチャーブック

(2月14日—18日)

第4回展示

「タイポグラフィ・タイプフェイス 活字・写植・デジタルフォントの見本帳」

(2月21日—25日)

第5回展示

「雑誌のデザイン [日経サイエンス] 200冊、[FMR] 60冊」 (3月7日—11日) 日経サイエンスでアートディレクターをご担当

なお、森先生は2005年3月退職のため、第1回ライブラリートークは教育支援センター主催の最終講義を兼ねて行いました。

(図書館情報センター 川上 勇)



Topics ● ② はんばら&女子美 デザインプロジェクト展

本学芸術学部ファッション造形学科の学生たちが中心に半原の企業の製品デザインを提案する「はんばら&女子美 デザインプロジェクト」。2004年度が2年目になるこのプロジェクトの活動内容を発表する展覧会が3月14日から15日まで、「杜のホールはしもと」で開催されました。

半原(はんばら)〔神奈川県愛川郡愛川町〕は、1807年(文化4年)より200年に渡って続く撚糸産業の地です。このプロジェクトは、半原の企業が伝統の産地の撚糸・織物の技術を活かしつつ、製品のデザインに女子美生の感性やオリジナリティを加えて新たな製品作りに取り組むことで、海外からの安価な繊維の輸入増という昨今の厳しい環境の中での半原の更なる飛躍・発展を目指そうとするものです。会場にはこれまでのプロジェクトから生まれた製品とともに、女子美生のアイデア提案の過程をまとめたファイルも展示されました。2004年度のプロジェクトは8月末から開始。プロジェクトを進めてこられた財団法人繊維産業会や(株)さみはら産業創造センターの方のお話では、企業側の求めるものと学生側の作りたいものとの間のギャップを刷り合わせる時間が充分に取れなかったとのこ

と。来年度以降は消費者へのリサーチも含めて十分なマーケティングをした上で、女子美生とともに製品としてのレベルアップを目指していきたいとのことでした。



NEWS ● ① 100周年記念大村文子基金 平成16年度 女子美美術奨励賞

創立100周年記念事業の一環として、「100周年記念大村文子基金」は、平成11年に大村智名誉理事長夫妻からの寄付を基に、文子令夫人のお名前をいただいて設立されました。この基金の褒賞事業のひとつである女子美美術奨励賞の留学生対象(3名)、付属高校・中学校生対象(2名)の受賞者が決定しました。

●留学生対象

アンミジャ
安美子(韓国出身) 大学院美術研究科修士課程美術専攻 洋画領域1年次

バクチョンファ
朴景花(韓国出身) 芸術学部ファッション造形学科 4年次

バクチョンソン
朴景順(韓国出身) 短期大学部造形学科デザインコース 1年次

●付属高校・中学校生対象

佐々木 靖子 付属高等学校 3年竹組

シェリー ゼイン キム 付属中学校 3年梅組



(左から)安美子さん、朴景花さん、朴景順さん



シェリー ゼイン キムさん



佐々木 靖子さん

NEWS ● ② 女子美りかちゃん発売!

「りかちゃん」は、大手玩具メーカー「タカラ」の主力商品で、企業のPR媒体として大活躍している人形です。3月10日、付属高校の制服を着た「女子美りかちゃん」の発売が開始されました。これは、「タカラ」でりかちゃんのドレスデザインを担当する高木ゆうきさん（付属1997年卒、芸術学部絵画科日本画専攻へ）の夢の企画。付属にこの話があったのが昨秋でした。発売までには、人形の肌色、髪型、制服の素材、パッケージにいたるまで、様々な試行錯誤

が繰り返されました。りかちゃんは女の子の夢見る素敵なライフスタイルを提案し続けるキャラクターです。時代の空気を感じ取り、美の文化の一翼を担って社会に貢献する女子美生を表現してもらうのに、ふさわしい大使です。女子美の関係者はもちろん、広く多くの方々に、女子美の魅力を伝えてくれることでしよう。

※「女子美りかちゃん」は銀座博品館にて限定発売。



NEWS ● ③ 水森亜土講演会

昨年12月、学友会主催のアートセミナーに、あの可愛いイラストで有名な水森亜土さんを招きました。当日は、イラストのほかJAZZや舞台でも活躍をされている亜土さん（通称：亜土ちゃん）を一目観ようと、4401番教室は瞬く間に全席が埋まり、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。参加者は、誰もが笑みを浮かべ、亜土ちゃんが次々と披露するパフォーマンスに目を奪われ続けました。なお、「亜土ちゃんのイラストプレゼント!」の際には、参加者が絶叫し、壮絶そのものでした。亜土ちゃんも「すごいね!」と笑顔で喜んでくださり、約2時間の講演会

は大成功で幕を閉じました。
短期大学部 造形学科 デザインコース 2年
学友会執行部 渡辺 唯



NEWS ● ④ ハスクバーナ・バイキング&マデイラ賞受賞者紹介

■スウェーデン・ハスクバーナ バイキング賞受賞

三科由利子（短期大学部 造形学科 デザインコース
クラフトデザイン系 刺繍 2年）

＜スウェーデン・ハスクバーナ バイキング賞＞
スウェーデンのハスクバーナ社は300年以上の伝統をもつ製造メーカーです。1689年に国立工場として創立し、現在はチェーンソーから幅広い家庭用機器を製造しています。1872年よりミシンの製造を始め1979年にはハスクバーナ社として初のコンピュータミシンを開発し、世界の刺繍作家やマシーンキルト作家に愛用されています。ハスクバーナ バイキング賞は、2001年からバイキングソーイング マシーンズ ジャパン社より、授業にハスクバーナミシンを使用している本学短期大学部 造形学科デザインコース クラフトデザイン系と専攻科の刺繍の学生を対象として設けられた賞で、卒業・修了制作において最優秀作品を制作し、将来専門分野での活躍が期待される学生に授与されています。

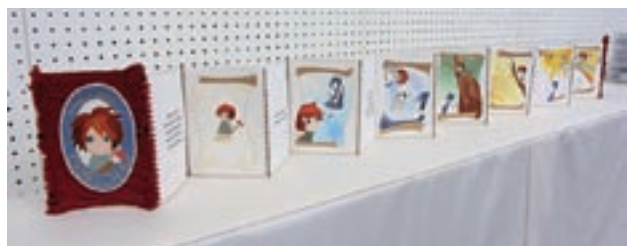


「和国-幻影」 130×97cm

■マデイラ賞受賞

浦邊真奈美（短期大学部 造形学科 デザインコース
クラフトデザイン系 刺繍 2年）

＜マデイラ賞＞
ドイツのマデイラ社は工業用、作家・一般向けの刺繍用糸の製造および販売を行っています。アメリカ・イギリス・日本などに支店があり、業務のほかに刺繍やテキスタイル、ファッションを学ぶ学生たちをサポートすることも重視し、毎年イギリスで開催されるマデイラ・ショーは、展示部門に大学や専門学校の学生作品を招待展示しています。



「グリちゃん」 24×254cm

NEWS ● ⑤ 「多彩な響き 大村コレクションより」展

女子美術大学名誉理事長である大村智氏は、社団法人北里研究所所長であり天然有機化合物分野の世界的科学者ですが、一方絵画や陶器、彫刻など幅広い美術品のコレクターとしても知られています。1997年女子美術大学の理事長に就任してからは、女子美卒業生の作品を重点的に蒐集、大きなコレクションになりました。このコレクションを「多彩な響き」のタイトルのもと、2002年の女子美アートミュージアムを皮切りに、各地の同窓会支部と連携して巡回展を開催しています。

今回京都での「多彩な響き 大村コレクションより」展は、京都・滋賀・奈良支部を中心とした実行委員会により、市内中心部の京都文化博物館で開催されました。日本画では、文化勲章受章者片岡球子、文化功労者郷倉和子、堀文子、洋画では、文化功労者三岸節子、丸木俊、皮革工芸で独自の表現により文化勲章を受章した大久保婦久子、鏡面の抽象造形彫刻の多田美波等々

を中心に、女子美術大学の卒業生で戦前より現在まで美術界で活躍してきた作家の作品95点が展示されました。女性による芸術の歴史を彩る多彩な顔ぶれの作品で文字通り多彩かつ豊かな一大交響曲が鳴り響いた感があり、6日間の短い会期ではありましたが、2400人以上の入場者を数えました。なお、18日には、大村智氏による講



「多彩な響き」京都展



「多彩な響き」1月18日(火) 講演会(同窓会主催)

演会も開催されました。女子美術大学の存在を広く知らしめる効果もあり、大成功を取めた展覧会でした。(美術資料センター)



「多彩な響き 大村コレクションより」

会期：2005年1月18日(火)～1月23日(日)

会場：京都府 京都文化博物館

主催：「多彩な響き」実行委員会

共催：女子美術大学 女子美術大学同窓会

女子美術大学同窓会京都・滋賀・奈良支部

協力：社団法人北里研究所

後援：京都府 京都市 京都新聞社 NHK 京都放送局

NEWS ● ⑥ 30年前の卒業式の風景 ～デスクの中の1本のフィルムから～

恐らく、今から30年くらい前の卒業式のワンシーンです。壇上にいらっしゃるのには当時の学長、故三谷十糸子先生。(三谷学長は1971年1月～75年3月まで学長を務められました) また、現在の卒業式でも可憐な音色を奏でているマンドリン部の大先輩たちの姿も…。さて、この懐かしい写真は、今年度退職をされた宮崎勝教授(短

期大学部造形学科デザインコース)のデスクの中からつい先日発見された、1本の未現像フィルムの中に収められていたものです。30年に及び眠りから覚めたフィルムは今回、写真が専門の宮崎教授の手によって、現像が実現したことにより、30年前の卒業式の情景が鮮明に蘇ることとなりました。



2005年度 役職等人事・主任等人事

2005年度 役職等人事

学長	立石 雅夫
美術研究科長	広瀬 きよみ
芸術学部長	加藤 修
短期大学部長	佐藤 善一
図書館長	原 聖
美術館長	ヤマザキ ミノリ
研究所長	飯村 和道
オープンカレッジセンター長	(兼) 佐藤 善一
保健センター長	石田 良恵
大学教務部長	横山 勝樹
短期大学部教務部長	伊勢 克也
大学学生部長	工藤 直
短期大学部学生部長	柏原 花子
広報担当部長	(兼) 伊勢 克也
国際交流担当部長	小林 篤志
学長補佐	山本 健史
	(兼) 勝又 俊雄

2005年度 主任等人事

○芸術学部・短期大学部共通

基礎教養系科目主任	勝又 俊雄
外国語系科目主任	稻見 博明
保健体育系科目主任	小島 康昭
教職課程主任	前田 基成

○芸術学部

絵画学科洋画専攻主任	嶋 剛
日本画専攻主任	橋本 信
工芸学科主任	清水 明子
立体アート学科主任	藤倉 久美子
デザイン学科主任	山本 吉男
デザイン学科	
VCD コース主任	茅野 義博
PD・ED コース主任 (兼)	山本 吉男
メディアアート学科主任	浅野 正博
ファッション造形学科主任	佐久間 恭子
芸術学科主任	面出 和子

○短期大学部

造形学科美術コース主任	柳 千代子
造形学科デザインコース主任	木下 道子
専攻科主任	嶋澤 道雄
別科主任	佐々木 宏子

○学生相談室

学生相談室長 (相模原)	江川 澄子
学生相談室長 (杉並)	山田 朋子

2005年度 新任専任教員紹介



奥村 毅正
Okumura Yukimasa

芸術学部 デザイン学科 教授

1947年生まれ。桑沢デザイン研究所卒。'70年デザインユニットWORKSHOP MU!! 設立に参加。はっぴいえんど、サディスティック・ミカ・バンドを始め、数々のロックミュージックのLPジャケットを制作。'79年THE STUDIO TOKYO, JAPAN, 設立。主にY.M.Oのアートディレクターを務める。広告、ポスター、ブックデザイン、ステージデザイン等各ジャンルのADC賞を4回受賞。東京アートディレクターズクラブ、タイポディレクターズクラブ、JAGDA会員。

35年ほどグラフィックデザインに携わってきました。70年代、80年代、90年代、そして現代までを振り返って見ると、それぞれの年代の社会の特性に大きく動かされながら作品が変貌してきたことが見えるのだけれど、全体を通してそれらがある一定の創意を含有しつづけていることにも気づかされます。それは何かといえば、まさにデザインとは何かという課題そのものの様な気がします。この課題の到達点が大学という場にあるのではと思っています。



北川 フラム
Kitagawa Furamu

芸術学部 芸術学科 教授

1946年 新潟県高田市生まれ 東京芸術大学美術学部芸術学科卒
アートディレクター アートフロントギャラリー代表
立川駅北口再開発「ファーレ立川」で日本都市計画学会設計賞、「大地の芸術祭：越後妻有アートトリエンナーレ2000」でふるさとイベント大賞、東京ファッション大賞を受賞。アパルトヘイトに反対する展覧会、ガウディの紹介等を含めて、フランス共和国政府より芸術文化勲章を受賞。

美術は場所と人、人と人を繋ぎます。世の中が均質化し、すべてが計量可能になり効率化だけが価値になっているこのような時代こそ、身体的、生理的な表現である美術の持っている役割は多いと思います。自然に媒介されたエネルギーは美術を専門にするしないに拘らず世の中の大なる可能性を拓いていくと思います。好奇心と勇気と素直さをもって進みましょう。



大森 悟
Omori Satoru

芸術学部 絵画学科
洋画専攻 助教授

1969年茨城県生まれ。1994年東京芸術大学美術学部油画科卒業。作品大学美術館買い上げ。1996年東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。1999年東京芸術大学大学院美術研究科博士課程修了。美術博士。コナミコンピュータエンタテインメントスクール(映像デザインコース)講師。川崎市市民ミュージアム講師。2000年東京芸術大学美術学部油画科助手。2001年福井大学地域科学部生涯学習講座助教授。主な発表歴
1997年ペリーニの丘ギャラリー(横浜)。2000年コバヤシ画廊(銀座)。
2001年コバヤシ画廊(銀座)。2002年Pepper's Loft Gallery(銀座)。
2003 Key Gallery(銀座)。2004 コバヤシ画廊(銀座)。その他、グループ展、レジデンス事業、舞台美術、講師活動、審査委員などの活動

五感で感覚的に得られる情報は、それ自体は点と点の様なものです。様々なレベルの情報を整理して、私たちは暮らしています。その一つに、輪郭という概念があります。私は、絵画における線を起点に、様々なメディアを通して、この概念の持つ造形の可能性を考察しています。現在進行形の関係を含む美術とは、これを読んでいるあなた、まさに今生きた存在が基点になっています。授業を通して、その基点をより明確にして行きましょう。



杉田 敦
Sugita Atsushi

芸術学部 基礎教養系 助教授

1957年生まれ。批評家。大学などで講義も行う。2002年よりオルタナティブ・スペース、art & river bankを運営。著書に、『メカノ』(青弓社)、『リヒター、クルド、ベルンハルト』(みすず書房)、『アソレス、孤独の群島』(彩流社)など。展覧会論文に『存在としての光』(James Turrell、水戸芸術館)などがある。

アートは、視覚的な造形だけを意味するわけではありません。今日では、より深い意味での思想や、社会の諸問題に対する視線、ときにはそうしたものに裏づけられた社会的実践までが要求されるようになりつつあります。アートを狭い意味での表現技術から解放し、より広い意味での思考のためのツールとするにはどうしたらよいか。同じ時代を生きるものとして、ともに試行錯誤することができればと思います。



佐藤 真澄
Sato Masumi

短期大学部 造形学科
デザインコース 専任講師

1969年埼玉県生まれ
女子美術短期大学 専攻科 造形専攻宣伝計画 修了
TDKデザインコア株式会社を経て、1997年より女子美術短期大学 造形科、教職課程、日本歯科大学 歯学部 非常勤講師
2000年より女子美術大学 基礎教養系、2001年より女子美術大学 芸術学部 メディアアート学科 非常勤講師

多様なメディアがコミュニケーションの手段となる現代では、様々なコミュニケーションが存在し溢れているがゆえに、その質も問われています。良いコミュニケーションのかたちとはどういうものなのか？

情報の良い発信者となるためにはまず良い受信者になることです。頭にアンテナをたてて、そして考える。とても単純なことだけれど、とても大事なことです。私も頭によいアンテナをたててゆきたいと思います。

JAM ● ● 女子美アートミュージアム

■ 展覧会案内

2001年10月に開館した女子美アートミュージアムは、2004年秋に3周年を迎えました。その間社会への貢献も視野に入れた展覧会活動を続けてきた結果、美術大学の美術館として広く認知されるようになり、入館者数も増加してきています。4年目に入った2005年度は、学外と学内のバランスのとれた企画展を計画しています。

2005年度最初の展覧会は、「JAM session 2005 女子美教員作品展」です。女子美アートミュージアムが開館した半年後の平成14年度最初の展覧会として、「女子美セッション2002 教員作品展」を開催しました。これは、女子美術大学の実技系教員の作家としての一面を、日頃指導を受けている学生はもとより、地域社会、および美術界に広く知ってもらうための展覧会でした。以来3年を経た今年の4月か

ら7月にかけて、再度「教員作品展」を開催し、今後は定期的を実施していく予定です。

女子美術大学の教員は、学科構成に合わせ、美術の多様な分野の人材が集まっています。それぞれが、大学において学生を指導し育成する一方で、作家活動を続けて表現者として活躍しています。その多様な作品を一堂に展覧し、学内の学生および教職員、そして学外の人々に鑑賞の機会を提供することは、美術の大学である本学にとって非常に意義のあることと思われま

● 展覧会の予定

「活躍する若きOG展」(仮称)	9/14～10/23
「さがみ風っ子展」	10/27～10/31
「カネボウコレクションと小袖展」(仮称)	11/9～12/18
「女子美術大学美術館収蔵作品展」(仮称)	2006年1/11～2/20
「女子美術大学大学院 修了制作作品展」	3/3～3/21



「JAM session 2005 女子美教員作品展」
会期：2005年4月13日(水)～5月30日(月) アート系
2005年6月8日(水)～7月25日(月) デザイン系
写真：佐野ぬい「冬のシネマ」

■ 展覧会終了報告

● 「女子美術大学・女子美術大学短期大学部／退職教員記念展」

2004年11月29日(月)～12月18日(土)

ギャラリー ニケ

2005年1月12日(水)～2月21日(月)

女子美アートミュージアム

2005年3月で退職された8名の先生方を記念し、その作品を展示する展覧会で、12月にまずギャラリーニケで、1月から2月にかけて女子美アートミュージアムにて開催しました。先生方は、芸術学部の彦坂章子教授、後藤照雄教授、松崎笙子教授、山田愛子教授、短期大学部の小野和子教授、齊藤研教授、志賀洋清教授、宮崎勝教授です。洋画、デザイン、写真とそれぞれの分野での足跡を女子美の美術館に印され教育の場を去られました。今後は作家としてのさらなるご活躍が期待されます。ご健康をお祈りいたします。



(美術資料センター)

NEWS ● ● 7 公募展受賞者紹介

第63回手工芸美術展覧会 <学生作品の部>

● 文部科学大臣奨励賞受賞

内田 桃子 (短期大学部 造形学科 デザインコース
クラフトデザイン系 刺繍デザイン 2年)

● 二等賞受賞

三科由利子 (短期大学部 造形学科 デザインコース
クラフトデザイン系 刺繍デザイン 2年)

第8回「エネルギー賞」展

● 入選

佐藤 美和 (芸術学部 メディアアート学科 1年)

第2回 「HEARTLAND KARUIZAWA DRAWING BIENNALE 2005」

入選者

金上智美、山口梨花、長野美保、小林奈生、
小山亮子、杉田有希、吉岡聖美
(以上7名 短期大学部 別科 現代造形専修)

■ 展覧会：2005年4月29日(金)～6月30日

軽井沢脇田美術館 軽井沢の展覧会と連動して東京・六本木 HEARTLAND にてポスターセレクション等を展示。

主催：財団法人脇田美術館 協賛：キリンビール株式会社

2004年度 卒業(修了)制作展 〈杉並キャンパス〉 短期大学部



●平成16年度 卒業制作賞・修了制作賞・優秀作品賞 受賞者（短期大学部）

【卒業制作賞】

【造形学科】美術コース (絵画) 井島 小也香
持田 佳奈子
(彫塑) 久保 絵里

【造形学科】デザインコース

・情報メディア系
叶 夏野
多田 恵子
水尻 自子
山路 夢
・空間インターフェイス系
・クラフトデザイン系
(陶芸・メタル) 福塚 真梨
(テキスタイル) 島谷 理奈
斉藤 美鈴

【修了制作賞】

【別科】現代造形専修 金上 智美

【優秀作品賞】

【造形学科】美術コース (絵画) 小松 美羽
横山 直子
渡部 珠美
(彫塑) 新聞 千代香
【造形学科】デザインコース
・情報メディア系
岩崎 真莉子
小谷野めぐみ
坂巻 まり子
門馬 有美

・空間インターフェイス系 會田 晃子
米山 由里
・クラフトデザイン系 (刺繍) 齋藤 晴美

【専攻科】造形専攻

・美術コース 鈴木 亜希子
・デザインコース 岩淵 恵子
・工芸デザインコース 松坂 真理
村山 智子
山崎 仁美

〈相模原キャンパス〉

芸術学部・大学院



●平成16年度 卒業制作賞・卒業論文賞・優秀作品賞・優秀論文賞 受賞者（芸術学部）

〔卒業制作賞〕

- | | | |
|--------------|-----------|---|
| 〔絵画学科〕 | 絵画学科 洋画専攻 | 井上 恵美子
石見 響子
内野 宏美
大川 明子
上田 千夏
菅谷 美佳子
加藤 啓子
小石 真実子
中山 紗織
伊藤 琴枝
池田 裕美子
菊池 実穂
小宮 麻友美
後藤 有紀 |
| 〔絵画学科〕 | 日本画専攻 | |
| 〔工芸学科〕 | | |
| 〔立体アート学科〕 | | |
| 〔デザイン学科〕 | | |
| 〔デザイン科〕 | 環境計画専攻 | |
| 〔メディアアート学科〕 | | |
| 〔ファッション造形学科〕 | | |

〔卒業論文賞〕

- | | |
|-----------|-------|
| 〔芸術学科〕 | 福原 多英 |
| 〔優秀作品賞〕 | |
| 〔絵画学科〕 | 洋画専攻 |
| 〔絵画学科〕 | 日本画専攻 |
| 〔工芸学科〕 | |
| 〔立体アート学科〕 | |

〔デザイン学科〕

- | |
|--------------|
| 安西 紗織 |
| 秋定 里穂 |
| 伊澤 はるみ |
| 根岸 愛 |
| 萩原 幸子 |
| 山田 玲奈 |
| 原脇 優 |
| 板橋 さやか |
| 蒲 ちひろ |
| 菅 綾子 |
| 中村 友美 |
| 玉城 舞衣 |
| 岩永 文 |
| 〔メディアアート学科〕 |
| 〔ファッション造形学科〕 |
| 〔優秀論文賞〕 |
| 〔芸術学科〕 |
| 渋谷 友紀 |
| 中島 彩花 |

Graduation

JOSHIBI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

学外卒業制作展

■大学院

・美術研究科 修士課程 美術専攻 洋画領域
「Exhibition "M2"」
(銀座・ギャラリー青羅) 2.6 ~ 19

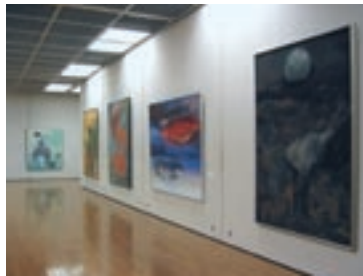
■芸術学部

・絵画学科 洋画専攻、絵画学科 日本画専攻、
立体アート学科
「東京五美術大学連合卒業制作展」
(東京都美術館) 2.22 ~ 26
・絵画学科 洋画専攻 (版画)
(すどう美術館) 3.15 ~ 20
・絵画学科 日本画専攻
(タワーホール船堀 (江戸川区民ホール)) 3.2 ~ 7
・工芸学科<染・織コース>
(原宿QUEST HALL) 2.20 ~ 22
・工芸学科<陶・ガラスコース>
(スパイラルガーデン) 2.16 ~ 20
・デザイン学科<VCDコース>
(Gallery CLASKA) 3.27 ~ 29
・デザイン学科<PDコース>
(東京デザインセンター) 3.19 ~ 21
・デザイン学科<EDコース>
(横浜赤レンガ倉庫) 3.23 ~ 27

・メディアアート学科
「FIRST CLASS」
(横浜赤レンガ倉庫) 2.22 ~ 23
・ファッション造形学科
(東京デザインセンター) 3.4 ~ 6

■短期大学部

・専攻科 造形専攻 デザインコース
(GALLERY ES) 3.1 ~ 6
・造形学科 デザインコース クラフトデザイン系
陶芸・メタルデザイン
「陶芸・金工・漆芸展」
(銀座・ギャラリー青羅) 3.20 ~ 26
・造形学科 デザインコース クラフトデザイン系
テキスタイルデザイン
(銀座アートホール) 2.14 ~ 20



平成16年度 加藤成之記念賞

<大学院>
美術研究科 修士課程 美術専攻 洋画領域 今村 綾

<芸術学部>

絵画学科 洋画専攻 三原 奈津子
絵画学科 日本画専攻 野村 郁実
工芸学科 鈴木 麻里江
立体アート学科 竹下 のぞみ
デザイン学科 大河内 かおり
メディアアート学科 藤井 深雪
ファッション造形学科 鎌田 瞳
芸術学科 松原 彰子

<短期大学部>

造形学科 横山 直子
専攻科 三科 由利子
別科 杉田 有希

平成16年度 福沢一郎賞

大学院 美術研究科 修士課程 美術専攻 洋画領域 今村 綾
大学院 美術研究科 修士課程 美術専攻 版画領域 内山 良子

平成16年度 大久保婦久子賞

大学院 美術研究科 修士課程 美術専攻 洋画領域 大沼 真由子
大学院 美術研究科 修士課程 デザイン専攻 視覚造形領域 佐賀 一郎

平成16年度 女子美術館収蔵作品賞

卒業(修了)制作で優秀な作品を女子美アートミュージアムが所蔵作品とします。

<芸術学部>

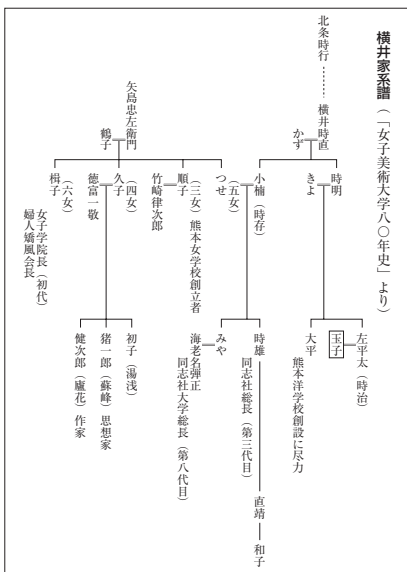
絵画学科 洋画専攻 三原 奈津子
絵画学科 日本画専攻 西田 知世
工芸学科 三ノ宮 陶子
立体アート学科 向井 雅子
デザイン学科 前川 奈歩
メディアアート学科 孝橋 茉莉江
ファッション造形学科 後藤 有紀

<大学院>

美術研究科 修士課程 美術専攻 洋画領域 大沼 真由子

Series ● ● ● —シリーズ歴史資料紹介⑩—

女子美のルーツを訪ねて そのⅡ 横井家からの影響（小楠、左平太、大平）



横井小楠（平四郎1809～1869年）は、彼なくしては明治維新は語れない、と言われるほど偉大な人物である。第一級の儒学者でありながら開明的現実即した柔軟な思想を持ち、近年特に注目を集めている。小楠は、兄の時明が死去したため、二人の甥、左平太と大平に家督相続させたいと大切に育てた。左平太は後に玉子の夫となる人で、当時10歳、大平は5歳（前号で記載した熊本洋学校設立に力を尽くし、昭和28年熊本県文化功労者として顕彰された。）であった。

勝海舟は「俺はこの世で恐ろしい者を二人見た。それは横井小楠と西郷隆盛だ」と言い、終生小楠を師として仰ぎ、政治的な問題のある時はいつも相談した。吉田松陰、坂本龍馬、高杉晋作も小楠を深く尊敬したという。民衆の幸せのための提言は熊本では危険思想として恐れられたが、時の副将軍松平春嶽は1858年（安政5年）彼を福井に招き、政治顧問として江戸にも同行させた。その間小楠は頻りに海舟と会い、肝胆相照し、日本の将来について意見の一致をみた。ある時小楠は刺客に襲われ刀を取りに自宅に戻ったのを士道忘却と咎められ閉門、四時軒に塾居させられた。そこに海舟の書簡と支援金を届けたのは龍馬であり、その他にも多くの志士たちが訪れ、幕府・倒幕派を越えた広い交流があったという。

黒船以後、海軍力増強を必須として、軍艦奉行海舟は神戸操練所を設立。全国から集まる若者の塾頭は龍馬で、小楠は二人の甥をそこに托した。そこが半年後に閉鎖すると、長崎の洋学所に二人を入れ、更にフルベッキ宅に住み込ませ、英語と異文化を修得させた。世界を知りた

いと願った小楠は屢々そこを訪れ、日本の未来のとるべき道を探り、確かめた。その出会いは正確な羅針盤の役目を果たしたのである。

フルベッキ（ヴァベック）とはオランダ系米人宣教師で、幕府お雇い外国人の一人である。1859年来日し、長崎致遠館で英語と数学を教え、大隈重信等を育て、1869年（明治2年）新政府に招かれ各国憲法の翻訳をするなど、多方面の才能を発揮し、新生日本誕生に貢献した。

1866年（慶応2年）、二人の甥は海舟、フルベッキの計らいで渡米させることになった。その時小楠が贈った言葉は140年を経た現在でも必要な魂のあり様を簡潔に表現したものである。

堯舜孔子の道を明らかにし
西洋器械の術を盡くす
何ぞ富国に止まらん
何ぞ強兵に止まらん
大義を四海に布かんのみ

—中国の堯舜の政治のように人間の生活を豊かにする徳（情）と仁（慈しみ）の心を持ち、東洋哲学の真理を修め、西洋の科学技術の精髓を活用すれば、富国強兵といった目先のスローガンを越えて、人類全体に対する平和的貢献ができるのだ—

当時国禁とされた渡航実現のため、22歳の左平太は伊勢佐太郎、大平17歳は沼川三郎と変名し、ウォルシュ商会の船で長崎を出発したのは4月末。喜望峰を廻り半年かけてニューヨークに到着。異国の家庭での生活が始まった。

フルベッキは横井二兄弟をはじめとしてニューヨーク、ラトガース・グラマー・スクールに若者たちを送った。大平は航海学校、左平太は大学に進み、さらにアナポリスの海軍兵学校に転学、一時帰国して玉子と結婚した。その後再度渡米して復学。1875年に帰国して元老院権少書記官に任ぜられたが、弟と同じ病で死去（31



横井大平



横井左平太

歳）。22歳で未亡人となった玉子が、以後、ひたむきに女子美創立に向かって歩み続けたのは、夫から聞いたアメリカ女性のあり方や女子のための美術学校の話の遺志として受け継いだのであろう。

横井小楠の卓越した思想は海舟、龍馬、フルベッキの視野を加え、ますます高く、奥深く広がり、明治維新の原動力となり、身近な親族の人々にもしっかりと伝えられた。左平太、大平は超一流の人物から直接指導を受け、熊本洋学校、女子美という先駆的な学校の設立が実現した。また、小楠の妻となった、矢島家の五女で矢島直方（小楠弟子）の妹であるつせは、共に暮した玉子や姉妹たちに夫の高い志を伝えた。矢島家の三女順子は竹崎茶堂（同）と結婚し、熊本女学校を設立、四女久子は徳富一敬（同）と結婚し、蘇峰や蘆花を育てた。そして六女の矢島楯子は初代女子学院院長、日本基督教婦人矯風会会長となるなど傑出した女性たちがいる。彼女たちからも薫陶と援助を受けた玉子は結婚後も「伊勢タマ」であったが、1889年小楠20回忌の時、横井姓をもらい分家した。夫の死後14年、いかに横井家に愛着と目標を持ち、生きていたかを物語る。小楠が願った「民」を女性に置き換え、その幸せと自立のために行動した玉子。美しさ、優しさに秘められた思いの激しさは、数値のみで人間を決める貧しい現在の世相を変える力となることを祈ってやまない。

（女子美術大学歴史資料整備委員 青木純子）



横井小楠をめぐる維新群像（熊本城下高橋公園）

退職教員紹介



大学院美術研究科
教授

森 啓

—数年に過ぎなかったけれど—女子美の教師として、強く印象に残るのは、多くの学生諸嬢の造形表現能力の高さと、日常感じられる聡明さでした。これまでの僕の経験のなかで、その印象は際立っています。形態と色彩の感性はすばらしい。説明能力にも優れています。僕の担当した「デザイン史」では、まあそれで充分でした。だが、

それだけでは、もの足りない感じがします。事の本質を洞察する力と多くの事象を関連付ける知的な構想力が見えません。深く考えた知性による強いメッセージの発信ができることを期待しています。



芸術学部
デザイン学科
教授

後藤 照雄

可愛いデザイン

平成4年に女子美に来るにあたって、「女性の感性にどう向き合うか」ということが私の課題でした。「家庭用アイロン」を出題した時、ある学生は、アイロン底部の周りにレースのフリルを付けたデザインを発表しました。戸惑う私を前に、一斉に“可

愛い”の合唱が響き渡りました。デザインの機能性、安全性に触れるのでなく、“私の欲しいアイロン”の提案には、些か呆然とさせられることが思い出されます。以来、女子美生の夢の実現化に腐心してまいりましたが、今ではその可能性に期待しております。長い間、大変お世話になりました。



芸術学部
絵画学科
洋画専攻
教授

彦坂 章子

—たからもの— 卒制作品の図録を見ながら思うのは、作品写真は各自1ページに過ぎないが、この中には様々な場面が集約されていることだ。学生たちは真剣に制作に取り組んでいるが、時には方向がつかめなくて涙を見せるほど悩むことがあるかと思えば一転、道が開けて声をかけるのも憚る程、集中して制作に没頭する。私にとってはこのような現場で彼等の真摯な姿に接することができたことが何よりの「たからもの」だった。そしてこれは多分、学生

同志にとってもかけがえのない「たからもの」ではないだろうか。お互いの制作状況が丸見えになってしまう教室という場所、ある意味でかなり過酷な空間であるだけに制作を通して得た友は、よきライバルであり戦友でもある。彼等は年を経るごとに言葉を越えた手ごたえのある人間関係を作り上げているように見える。退職にあたり、微力な私を支えてくださった女子美の皆さまに心から御礼申しあげます。



芸術学部
デザイン学科
教授

松崎 笙子

後輩の皆さんとのデザインを通して互いに向上していきたい心意気に魅せられて、長居をいたしました。皆さんから多くを学ばせていただいて、今の私があると感謝しております。デザインをやりたい!の思いで女子美へ。自由な空気の中で生意気を言って過ごした四年間の学びは、デザインを

超えた長い人生を創っていく上での心組みの基を得ることであり、女子美精神^{スピリット}を身につけたことであったようです。時が移っても、その女子美精神はずっと受け継がれています。否、女子美精神は学生諸氏の学びの姿によって創られ続けているのだと後輩の皆さんの中に強く感じています。



芸術学部
デザイン学科
教授

山田 愛子

相模原校舎は、廻りの木樹が大きく育ち、落ち付いてきました。三椏の花が咲き、やまももの実もなります。このようにしっとりした校内にはあちこちに秘密の場所もあるのです。5号館裏庭、8号館裏の小径や石切り場の隅など…。そこには思いがけないかたち、はっとするような美しい色や記憶の断片が満ちていて、校舎開校15年の時をすでに残しています。私はよく学生たちと授業で周辺を散策しました。虫メガ

ネやカメラを持って。散策の後教室に戻ると、何かみんなの顔にぼーっと赤みがさして表情が生き生きとしてくるのをいつも感じていました。そんな時、感受性とは、感性とは…と考えたものです。授業を通して私自身に学ばせてくれた日々は、とても幸せなものでした。出会ってきました多くの方々、女子美術大学に心より感謝いたします。



短期大学部
造形学科
美術コース
教授

齋藤 研

所感

安積良斎 (1790-1860)
江都客裏老風塵 はなのみやこの女子美
花落花開二十春 この世の樂園で、二十年が過
ぎました
鬢髮蒼然顔色改 わたしはとしをとりました
語音唯似故郷人 いまはふるさとをたのしむ
ときです

楽遊原 李商穩 (812-858)
向晚意不適 晴れた日に仲間と
駆車登古原 スキー場にいきました
夕陽無限好 ゴンドラから見る下界はいつもと
変わらず
只是近黄昏 元気が(すこし)湧いてきました
齋藤 研 (1939-?)



短期大学部
造形学科
美術コース
教授

小野 和子

学生時代の女子美は木造の校舎。岩田売店の
ラーメンが30円。卒業式は4号館4階の講堂
(現：美術コース研究室のあるところ。)加藤学
長のバイオリン演奏・「いつも美しい心をもつ
ように」と祝辞をいただいた。卒業して43年。
東京オリンピックの五輪の飛行機雲を研究室の
窓からみた。社会の移り変わりとともに、女子
美も茅ヶ崎校舎が建てられ、その後相模原へ移

転した。私にとりまして女子美は、多くの先輩・
研究室の先生方のなかで、助手時代は仲間のな
かで、実技教室の学生作品の煌く才能に感動す
ることもあり、吸収することが多い学びの舎で
した。「絵を描くことは、生きていく事」をこ
れからも続けられることに深く感謝しています。
女子美の皆様ほんとうにありがとうございました。



短期大学部
造形学科
デザインコース
教授

宮崎 勝

昭和39年秋、東京オリンピック、杉並
校舎から五輪のマークが青空に描かれたの
を見てから40年が過ぎました。楽しかった
こと、残念な事柄など、今となっては懐

かしい思い出となりました。また、教職員
の皆様にはお世話になりました。「女子美」
が女子美らしく誇り高く発展されることを
心から祈ってやみません。



短期大学部
造形学科
デザインコース
教授

志賀 洋清

平和の工房

太古から変らないものがあった
女子の心に湧き出るやさしさの泉だ
このやさしさはすべての平和の元となる

もしやさしい泉・平和が無かったら
金も力も自由でさえも醜悪になる

やさしい涙の中に平安があった
やさしく明日を見る目の中に友和があった
やさしく生きる毎日の中に平穏があった

平和の泉を心に持って100年間
美しさを創造する人類がいた

女子美は平和を美しさに変える
不思議で巨大な工房であった



芸術学部
基礎教養系
教授

榮 隆男

“豊かな日々を省みつつ”

女子美の教壇に立って19年。過ぎ去っ
た歳月は夢のようでもありながら、現実
は様々な出来事が今更ながら去来します。
この美しい学園での数々の学生との出会い、
教職員の皆様方との交流、交歓は私の人生

そのものでもありました。学園から受けた
恩恵の大きさに自分がふさわしい者であ
ったか、今は静かに省みつつあります。こ
れからも女子美を思い続けて参りましょ
う。ありがとうございました!!



芸術学部
基礎教養系
教授

松田 五男

女子美での15年間は、充実した毎日
でした。自分が歳を重ねていることを忘
れるようなところがあり、毎日が新鮮
でした。オリジナルの洋画や日本画を最
初に目にした時の感動が現在も忘れら
れません。最初(平成2年)の女子美祭
の作品で馬を描いた作品が特に印象深
く、あれ以上の作品は

まだ女子美祭では見ていない程感心
したものです。いつも展示品が見られ
る環境をありがとうございました。大
学は、学生、教員が共に学び、発展
していく処だと思いますが、学生の皆
さんの質問から、いろいろ教えられ、
学びながらやってきたように思いま
す。

役職者紹介～新入生のみなさんへ～

新しい歴史を創る

理事長 中川 浩扶



皆さんは、21世紀を歩み、創る人です。20世紀は、特長づけて言うと、物質の豊かさを求めた時代でした。経済の拡大、成長、そのための思想が生まれ、政治外交が行われ、平和を願いつつ多くの争いがありました。教育のあり方も同様です。私は20世紀の中で、多くを過ぎてきました。20世紀を迎えるとき、彫刻家ロダンとも親交のあった詩人リルケが読んだ詩があります。

『ひとつの世紀が過ぎようとする、わかれめにわたしは生きる。大きなページがめくられる、その風を感じる。』

21世紀のページがめくられ、その風を感じる時、今までと違う何かを感じます。それは、心の豊かさです。個々の感性を表出し、共感を育てることです。美術は、そのための大きな要素です。期待が膨らみます。女子美は、明治33年(1900年)に創立されています。100余年の間、多くの先輩が師を得、友と語り、卒業後、社会で個性を生かしています。皆さんも、変革する時流の風をみて、学び、創造力を身に付けてください。入学おめでとうございます！

拓げて深めよう

学長 立石 雅夫



皆さん、ご入学おめでとうございます。創造することが好きであり、「造形活動」という道を勇氣を持って選ばれた皆さんに、心から敬意を表し応援します。しかし、「好き」=楽なものであるとは限りません。時としてハードルの高さに驚いたり、挫けそうになることもあるでしょう。私たちは皆さんを全力でサポートします。いつも希望と勇氣とチャレンジ精神を持って臨んでください。

表現するためには、相反する二つの契機が必要です。一つは、自分と向き合いエネルギーを凝縮する過程です。安易に妥協することなく、自分を見つめることを学んでください。借り物ではない自分の感性を磨いていくためにこそ、先人たちの表現のあとを辿り、謙虚に学び続けていくことが必要です。そして好奇心と探究心を持ち続けてください。もう一つの必要な契機は、自分を他者=世界に向けて開いていく過程です。そこでは決して独りよがりではない、世界と対話できる視野が必要です。友達や先輩たちとも触れあい、授業だけではなく、サークル活動、学外活動にも積極的にチャレンジし、世界と対話する地平を広げていってください。高校とは異なり、大学では受

け身の学習態度では、本当に大切なものを見つけることはできません。本学が提供する機会を自発的、積極的につかみ取っていきましょう。そして、この21世紀の世界の中で、自分がどのような表現者であるとしているのかを具体的にイメージしてください。本学の先生方、先輩たちが、その良きモデルとなってくれることと思います。

真の創造性とは、決して作品の中だけに表れるものではありません。皆さんが将来、どこでどう生きようとも、その能力は皆さんの可能性を広げ、生活そのものを豊かにしてくれます。失敗を恐れず、大胆に楽しく学生生活をエンジョイする。その中で皆さんが真の創造性を培っていかれることを願っています。



美術研究科長
広瀬 きよみ



芸術学部長
加藤 修



短期大学部長
佐藤 善一

訂正 (お詫び)

前号150号におきまして、記載に誤りがございました。ここに訂正いたしますとともに深くお詫び申し上げます。

P.9 「エヴァ・マリア渋谷氏 公開講演会&講演会」
播磨津子 → 播磨志津子

広報課では女子美のニュースを募集しています。
お気軽に下記までお知らせ下さい。
《広報課》 TEL. 03-5340-4513
FAX. 03-5340-4523
[E-mail] prs@joshibi.ac.jp
URL <http://www.joshibi.ac.jp>

発行 学校法人 女子美術大学
〒166-8538 東京都杉並区和田 1-49-8
企画・編集 企画部 広報課
監修 山田 愛子
発行日 平成17年4月1日